

# はまぼうふう vol. 2 2000.8.12.

## 石狩浜海浜植物保護センター通信

春から初夏にかけて石狩浜を彩った花々の多くは姿を消し、今、タネを実らせる季節を迎えています。ハマナスの実が終わってから約一月で大きくなり、赤みを帯びてきました。ハマエンドウは、およそ一月でその名のとおり、「エンドウマメ」によく似た豆(タネ)のはいったサヤを実らせます。まだ青いハマエンドウの実を見つけた子どもたちからは、「えだまめだ!」と声が上がっていました。

7月、ハマナスの丘公園を白く飾っていたハマボウフウたちは、ボール状のタネ(実)の集まりを花茎の先につけています。1つの株がつけるタネは大きい株で1000粒以上。しかし、このタネの中で、花や実をつけ

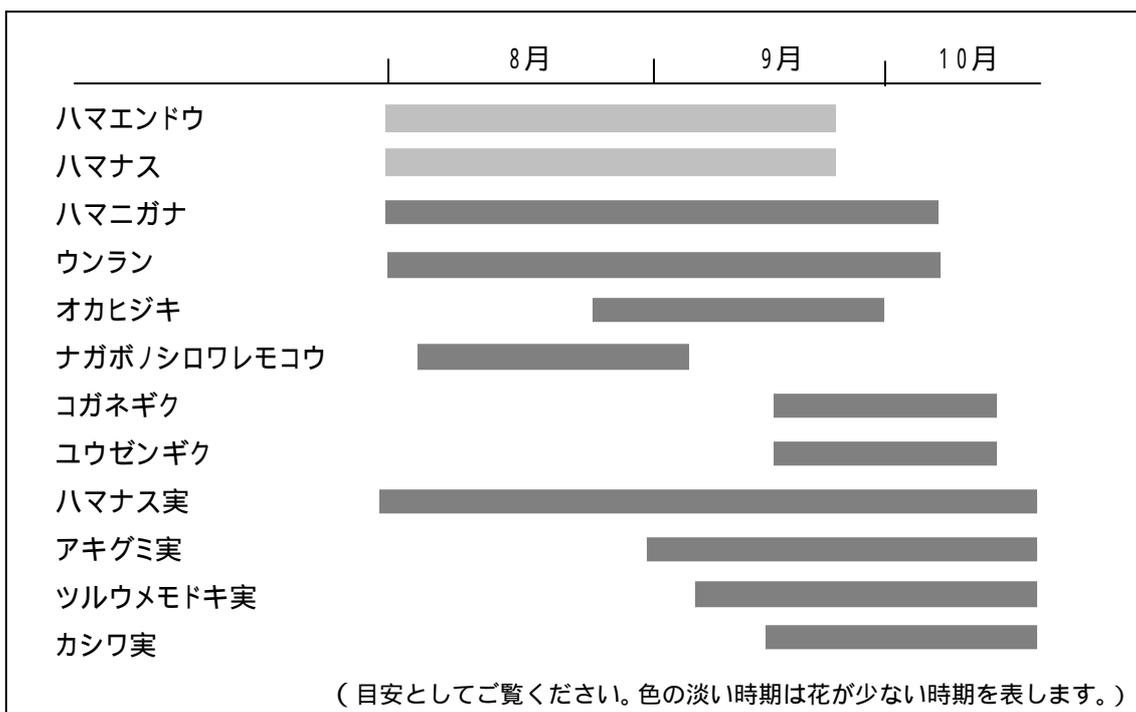
るまで育ち、生き残るものはごくわずかです。

彩りが寂しく思える季節、自然の中に残る次の世代の源(みなもと)を探してみるのもいいものです。



7月2日、咲き始めの頃のハマボウフウ

### 石狩浜秋の花(実)暦



## 6～7月の活動から

### 石狩海浜植物保護グループの活動

#### 海浜植物発芽・生育試験

ビジターセンター横に、ブルーの防風ネットで囲われた調査区があります。ここでは、北海道大学農学部園芸緑地研究室と石狩海浜植物保護グループとが協力して、海浜植物の発芽、生育に関する調査研究を行っています。

平成10年秋に播種、調査開始し、2年目になる今年は、まず、6月11日に追跡調査を行いました。まだデータはきちんと整理されていませんが、トピックをここで紹介します。

#### ハマナス

ハマナスの実には、大きいもので種子が50～100個ほど入っています。実を、1/4割り、1/2割り、まるごと1コの3通りで植えた結果、1/4割りは、翌春に多くが発芽してきましたが、まるごと1コ植えは、2年目に多くが発芽してきました。実の皮で覆われているうちは、中の種子は発芽しにくいでしょう。自然界では、動物が果肉を食べて取り除くことで、中の種子が発芽しやすくなるしくみなのでしょうか。

#### 図略

#### ハマボウフウ

ハマボウフウは、秋にタネを播けば、翌春、

高い割合で発芽します。2年目の春、死亡も少なく、区画内に密生しています。

しかし、「芽はたくさん出てくるけど、そのうちみんな消えてしまうんだ」との声もよく聞くので、今年の秋以降の調査で死亡率が高くなることが予想されます。

また、たくさんある株の中のごく一部ですが、今年、花をつけました。

#### コウボウムギ

コウボウムギのタネは、播種した翌年には発芽しませんでした。2年目の今春、一枚の細い線状の葉がたくさん出てきました。発芽です。コウボウムギの種子は硬い種皮をもつため、種皮が痛んで吸水、発芽できるようになるまで、少なくとも2年はかかるのだらうと思われれます。前号で紹介しましたが、ハマヒルガオも同様です。

#### 植生剥ぎ取り地の植生回復過程追跡調査

海水浴場から港へ向かって約1km、海岸通り沿いの植生は、2000年冬、除雪作業車によって剥ぎ取られてしまいました。この道路沿いの地域の元植生は、ハマナス、ススキ、チャシバスケが優占し、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、コガネギクやエゾカワラナデシコが混在する、固まった砂地に成立した海岸草原でした。

この区間に3地点の調査区を設け、植生剥ぎ取り後の回復過程を、経年の植生調査で明らかにしていきます。

6月29日、調査区の設定と第一回目の植生調査を行いました。第二回目は9月初旬に行う予定です。

2000.8.12.

### いしかり KIDS 21 の活動

7月8日、市内のこどもエコグループ「いしかり KIDS21」のみんなが、砂丘を歩いたり、海浜植物の苗を植えたりして、石狩浜の自然を体験・学びました。

海岸砂丘の上を、植物や動物を探しながら歩き、ひっそりと咲くハマボウフウや、石狩浜の貴重な財産、カシワの森を眺めました。海に向かって歩くにつれて、植物の種類が減っていく様子も観察しました。海に近い砂丘では、サンドバギーが走り回った後を見ました。みんな「アリじごく」といって削れた砂丘に飛び込んでいましたが、最後は「車(で砂丘を走るの)はダメ」と意見がまとまりました。

センターでは、砂丘で実際見てきたハマハタザオやエゾカワラナデシコの苗を移植しました。自然ではどんなところに生えていたか思い出して植えられたかな?秋にまた見に来ます。



私たちが植えたエゾカワラナデシコの苗、ちゃんと大きくなるかな。

### 石狩浜こども自然教室

7月30日、市内から集まった親子18名と海浜植物保護センター、さっぽろネイチャ

ーゲームの会からのスタッフとで、こども自然教室を行いました。ハマナスの丘公園を歩きながら、花、実、鳥、虫、潮の薫り、トゲトゲ、川が運んだものなど、16コの自然の中の探し物をし、ピンゴ形式でマスを埋めていく「フィールドピンゴゲーム」、石狩浜で見られる動物をヒントをたよりに当てていく「動物当てゲーム」、海浜植物の話や石狩川の話などを交え、石狩浜の自然を遊びながらじっくり学ぶことができました。

自然の中には「トゲトゲ」もたくさんありました。ハマナスの枝、エゾノカワラマツバの葉、コウボウムギの実、時にハマナスの実にもトゲトゲがついていました。

### 図略

### 石狩浜自然観察会

6月24日と7月23日に、ハマナスの丘公園をコースに、自然観察会が行われました。参加者は16名、6名(雨天)と少なめでしたが、みなさんから「とてもよかった。勉強になった。」などの声をいただき、今後さらに膨らませていきたいと思っています。講師は、石狩浜を長年活動フィールドとする石狩海浜植物保護グループのメンバーでした。



海浜植物の分布図を使い、海浜植物が砂丘の上ですみ分けしていることを説明。

## ハマナス分布の西限

7月2日、保護センターに、島根県太田市静間小学校の3年生のみなさんから、石狩浜のハマナスのことを教えてくださいとの電話がありました。

太田市静間町は、ハマナス分布の西限だそうです。ハマナス自生の南限は鳥取市の白兔海岸と言われますが、いずれにしる山陰海岸が南西限と見ることができます。

生徒のみなさんから、ハマナスの分布図を見ると、北海道の海岸にはほとんどどこにでもハマナスがあるのに、本州の(特に南の)方に来ると点々としか分布しないのはどうしてですか?との質問を受けました。

さて、センターでは次のように回答しました。

ハマナスは涼しい北の気候に適応した植物です。大昔、地球の気候が寒冷だった頃、ハマナスは今

よりずっと南の方まで生育していたと思われます。しかし、気候が暖かくなるにつれて、南の方では生きていけなくなり、現在、周りより少し涼しかったところに島状に取り残されているのではないのでしょうか。

そしてもうひとつ、本州のほうでは、北海道よりもずっと海岸の自然破壊が進んでいて、ハマナスが消えてしまっていることは確かです。

北海道から本州のほうにハマナスのタネが海流によって来ている、ということはないのですか?との質問も受けました。ちょっと調べただけでは、わかりませんでした。しかし、ハマエンドウやハマヒルガオについては、海流によってタネが運ばれるという記述がありました。(タネの中に空洞があるそうです。)

他にご意見あればお知らせください。

## 9～10月の予定

### 石狩浜自然観察会

コガネギクの花やハマナスの実が  
彩る浜の自然をご案内します。

9月17日(日曜日)

10時から正午まで(小雨決行)

参加費 無料

集合場所

石狩浜海浜植物保護センター

参加申込 不要

### 石狩浜こども自然教室

秋の石狩浜で、遊びながら自然のしくみを学びましょう。親子でふるってご参加ください。

日時 10月1日(日曜日)10時から正午まで

集合・活動場所

海浜植物保護センターとその周辺

参加費(保険代等)大人200円 子供100円

定員40名

申込先 石狩浜海浜植物保護センター

定員になり次第、締め切らせていただきます。

### 海浜植物のタネをまこう

9月、石狩浜も実りの季節です。ハマボウフウやハマナスのタネを、保護センターの見本園や周辺にみなさんの手でまいてみませんか?

日時 9月9日(第2土曜日)午前10時から正午まで(小雨決行) 参加費 無料

集合場所 海浜植物保護センター 参加申込 不要

参加申込・お問合せ・通信に関するご意見については、下記の連絡先までお願いします。

石狩浜海浜植物保護センター 〒061-3292 石狩市弁天町48番1

tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146 email:hamanasu@guitar.ocn.ne.jp

開館時間 am9:00～pm5:00 休館日 毎週火曜日(ただし祝日のときは翌日) 開館期間 4/29～11/3